

# 平和への思い 次の世代に



大井航空隊があった牧之原区(榛原地域)の牧之原コミュニティセンターでは、終戦記念日の8月15日、戦争の悲惨さや平和の尊さを子どもや孫の世代に伝えるために、元隊員や子どもたちなどが一緒に「平和の鐘」を鳴らし、当時の話を語る「平和の鐘を鳴らす集い」が開かれている。



元隊員の吉田さんと共に平和の鐘を鳴らす子ども

## 平和の鐘を鳴らす集い

同センターには、戦時中、時報として使われていた鐘が「平和の鐘」として残されている。元隊員らは、終戦記念日に集まり、仲間の慰霊と平和への願いを込めて鐘を鳴らしていた。

平成20年度から、当時区長を務めていた河合晴和さんの協力もあり、区役員らも集いに参加。23年度には、地域の子どもたちに、地元で航空隊があったことや戦争と平和について考えてもらいたいという思いから、集いを続けている。

集いでは、地域のお年寄りが集まり、サロン活動をしている「牧之原生き生き教室」の協力により、芋ごはんや芋いなど戦時中よく食べられていた食事を再現し、食べるなど、世代を超え参加者全員で当時を偲び、交流をしている。

## 次の世代に継承

集いは、3回目となる今年も8月15日に開催される。

子どもたちは、元隊員から当時の様子を直に聞くことで戦争の悲惨さを知り、当時の食事を食べることで現在の豊かな生活と平和のありがたさなどを学んでいる。子どもたちが将来、自分の子や孫へ、この経験や話を伝え、歴史を受け継いでいくことが大切である。



当時の状況と平和の大切さを語る元隊員

## 当たり前の日常が平和なんだとあらためて感じた これからさらに、曾祖母の手助けをしたい

昨年集いに参加して元隊員の方の話を实际聞いて、今ある当たり前の日常が平和なんだとあらためて感じました。

また、戦争中に食べていたという芋ごはんをみんなで食べて、今は当たり前で食事していますが、日ごろの食事に感謝する気持ちを持たなければいけないと感じました。

一緒に住んでいる曾祖母は、戦時中苦勞したと思いますので、これからさらに、曾祖母の手助けをしていきたいです。



昨年参加した  
牧之原小6年生  
おおいしはるか  
大石春華さん

## 活動を続け、戦争は二度とやってはならないものと 次世代に伝えていきたい

元隊員の方々が終戦記念日に平和の鐘を鳴らす活動をしていると聞いたとき、この活動を無くしてはいけないと感じました。元隊員や大井航空隊に携わった人たちが組織する「大井空同釜会」は以前は250人程いましたが、この集いに参加する元隊員も今は10人弱。彼らは、地域の子どもたちや住民との交流を喜んでいます。この地域に住む私たちとしても、この活動を続け、戦争は二度とやってはならないものと次世代に伝えていきたいです。



集いを企画する  
「平和の鐘」代表  
かわいしはるか  
河合晴和さん



大井海軍航空隊之跡

祈平和  
昭和57年5月27日建立  
大井空同釜会

## 平和の碑

昭和57年5月27日に、大井空同釜会により、いつまでも平和を願うために航空隊の隊門があった場所に残されていた隊門の上部、壁面に、元隊員の吉田さんが書いた「大井海軍航空隊之跡」、「祈平和」の銘板が取り付けられ、記念碑が建てられた。航空隊があった一つのシンボルとなっている。

【参考文献】牧之原大井海軍航空隊(松本芳徳著)、海軍大井航空隊(金谷高等学校郷土史研究部)、わたしたちの街にも戦争があったー15年戦争と志太・榛原ー(志太・榛原の戦争を記録する会)